

# 学習管理システムの活用によって期待できる効果

大学院教職実践開発研究科 教授 成瀬喜則

## 1. はじめに

Moodle<sup>[1][2]</sup>は LMS (Learning Management System : 学習管理システム) として活用されていることは以前から知っていたものの、実際に授業で使うことがあまりなく、今年度から使い始めたと言っても過言ではありません。したがって、Moodle の機能のほんのいくつかを使いながら授業をしているのが現状で、いわゆる Moodle 初心者です。

現在は、ほぼ全ての授業で Moodle を利用しています。課題提出のためだけに使っている授業もありますが、Moodle なしでは授業ができないという状況です。

本稿では、今年度の授業を振り返りながら、LMS の活用について考えてみたいと思います。

## 2. LMS を使う上で必要な研修

4 月当初、総合情報基盤センターで Moodle 講習会を開催してもらい、全体像がつかめました。初心者でも理解できる良い研修でした。

表計算ソフトウェアを使ったデータ処理や、プレゼンテーションソフトウェアを使った案内図作成など、基本的な関数の学習やアニメーション作成の学習をする上で参考になる演習例が用意されているのも魅力です。多くのサンプルコンテンツがあると、授業での活用のイメージが膨らむものと思います。

1 年次に Moodle を使った情報処理の授業が行われており、コースへの登録方法やアクセス方法など、基本的な活用方法について習得しているため、どの学年の学生に対しても、Moodle を使った授業をすることが可能になっています。全学的に学習管理システムを使った学習活動を実現する上で大変重要なことです。

## 3. 教育効果を高めるための活用方法

授業では、資料として作成したプレゼンテーションファイルを一齐にダウンロードさせたり、

課題ファイルを提出させたりしており、大変便利なツールです。さらに、出席状況をその場で把握する、フォーラムを利用して学生からの意見・要望をリアルタイムで受け取ることができる、課題に対する評価を次回の授業開始前に返すことができる、授業中に学生の意見を全員で共有することができる等、さまざま機能があるため、工夫次第で授業の幅が大きく広がります。

提出された学生の提出物や意見・感想に対して、評価点だけでなくコメントも即座に返すことができるということは、学生の学習意欲を向上させるだけでなく、学生とのコミュニケーションも増やすことにもつながります。

コミュニケーションで最も大切なことは、レスポンスの速さであり、教育効果を上げるための重要な手段ですが、Moodle でそれが可能になっていると思います。

## 4. 授業形態にあった利用方法

授業は総合情報基盤センターで行う場合と、通常の教室で行う場合があります。前者の場合は、もちろん各自が演習室の端末を使ってファイルをダウンロードしたり、投票やアンケート収集をしたりすることができます。通常の教室でも、スマートフォンを使えば可能だと思いますが、また試みていません。

通常の教室で行う場合は、学生は授業中にパソコンを使うことができないので、一斉提示の手段として活用しています。与えたいファイルがあるときは、授業後にダウンロードするように指示します。

課題に対しては、ワープロソフトウェアやプレゼンテーションソフトウェアで作成したファイルを提出できるようにしています。1 週間程度の締め切りを設定してあり、締め切りを超えて提出できないようになっています。課題をきちんと提出することを最優先していることを学生に伝え、期限を守ることの重要性を認識させ

たいと思っています。

提出課題については、次の授業が始まるまでに評価点を返し、学生はそれを見た上で次の授業にのぞむことができるようにしています。必要に応じて個別にコメントをつけることができるということは、授業を組み立てる上で大切な要因であり、フォーラム（電子掲示板）での学生からの要望・意見もうまく取り入れることによって、授業の質を上げることができます。

また、学生の提出した回答の中から、模範的、特徴的なものを選んで、次の授業の最初でできるだけ多く紹介するようにしています。これによって、学生の学習意欲が増すのではないかと期待しています。学生の中には、他の学生の意見や感想を知りたい人もいますので、少しでも学生の参考になればと思っています。

Moodle を使うことで課題をいつでもどこからでも提出できるようになっており、教員もそれをいつでも見ることができるようになっていくということが大きな利点であると思います。

## 5. Moodle の活用機能について

先述したとおり、授業で使っている機能はそれほど多くありません。活動としては、フォーラム、課題がメインで、フィードバック（アンケートの作成）、投票も活用しました。リソースとしては、ファイル、URL、フォルダ、ページを使っています。

フィードバックの機能を使って、学生への意識調査をすることも可能です。あるスキルについて学生はどこまで持っていると感じているかを調べるために、10項目でアンケートを実施しました。フィードバックの素晴らしいところは、学生がアンケートに答えたすぐその場で集計結果が得られ、それを学生全員に見せることができることです。

関連の授業をした後、再度、同じ項目でアンケートを実施しました。学生には、最初のアンケート分析結果と2回目のアンケート分析結果を見せて、学生の意識が変化していることを示しました。これによって、学生は授業によって興味・関心や学力が向上したことを感じることができます。

投票の機能も、フィードバックの機能と大きく違うところはないと思いますが、学生に意見を3択で聞き、その結果を全員に瞬時に返すことができます。その結果を見ながら、ディベートをさせることができるため、十分大きな威力を発揮すると思われます。

フォーラムも貴重な機能の一つです。ある授業で、学生に、意見や感想があればフォーラムに書き込むように指示しました。フォーラムに書き込んだ意見は、他の学生も読むことができるということを周知させた上で、書き込ませています。書き込みが当然他の学生にも読まれるということを意識させることによって、いわゆる情報モラル教育にもなるのではないかと考えます。

なお、ここでの書き込みで、学生の授業への要望を逐次知ることができ、授業を改善する上で大変参考になりました。

## 6. 今後の課題

Moodle は e ラーニング機能を有しています。学習教材を Moodle 上に置き、学生がいつでもどこでも必要な時に学習できる環境を作ることが可能です。さらに、小テスト機能を使って学習の理解度をチェックしながら学習を進めることができます。さまざまな活用方法を考えると Moodle は効力を発揮すると思われます。

来年度は、今年度開発した教材をさらに改善しながら、Moodle の機能をフルに活用して、教育効果の高い授業をめざしたいと考えています。

なお、4 月当初から、総合情報基盤センターの皆様には Moodle の操作方法について何度も質問させていただきましたが、いつも丁寧に対応していただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

## 参考文献

- [1] 富山大学情報基盤センター：Moodle インストラクタ用ガイド（富山大学版）  
<http://www.itc.u-toyama.ac.jp/moodle2/guide/>
- [2] 富山大学情報処理教育部会情報処理テキストワーキンググループ：大学生の ICT 活用標準テキスト [第 10 版]，富山大学出版会(2016)